

同大珠院だいしゆゐんの林泉は、鏡容池西きやうようちの方に巡りて庭中の美となる、池中の島へ石橋をわたして、島の中に綾杉といふ名木あり、株みきの皮目に桝もくありて綾絹に似たり、葉は常の杉に等し、高さ三丈許、京師の珍木なり。其木下に墳墓あり、中に真田左衛門尉さなだのじやうゆきむら幸村の墓あり、五輪の石塔婆を建て法号を鐫せんず。

幸村法号 大光院殿日道光白大居士 〔又当院の牌に慶長二十年

幸村の室 竹林院梅溪永春清大姉 乙卯五月七日歿〕

〔幸村の女の牌に真巖院法楽宗蓮大姉、此人は石河備前守いしかはびぜんの室家にして、真田氏の家系に添て什宝を寄附す、今当院にあり〕

○普賢像 兆殿司の筆 ○布袋画 宗達筆 ○唐画の鹿 筆者不詳

○色紙屏風 壺 雙 ○鷹画金屏風 壺 雙 ○南京鉢 洲浜形

〔龍猿の絵あり、其外手道具類数品あり、こゝに略す。寺説云、当院は石河備前守殿の菩提所にして、太平の後親属の因ちなみをもつてこゝに建らるゝとぞ聞えし〕